

寺
ごよみ

一 月

一 日 修正会

三 日 日校力ル夕会

一 一 日 御正忌米とき

一 二 日 御正忌準備

臨時総代会

御正忌

一 三 日 午後一時 お速夜

一 四 日 午後一時 釈の日

一 五 日 午前十時 お講

午後一時 お速夜

午後七時 お初夜

一 六 日 午前十時 お講

午後一時 ご満座

ご講師 高務哲量師



お講のお齋いろいろ

お寺は誰かの所有物ではなく、みんなのお寺であり、あなたのお寺、私のお寺です。

例えば、私が宝くじに当たって、ひとりで七五〇回大遠忌の事業費をまかなうと言ったら、それはお寺にとってマイナスだと思えます。みんなが痛みを伴いながらも、御懇志を出し合い、その結晶としてお寺が護られていくことにこそ、意味があるのではないのでしょうか。そして、その行いを、どうぞ子や孫にお伝えください。

核家族化が当たり前になりつつある世の中で、お寺との関わり方を全く知らない若い方が大勢います。年会費（かかり銭）でお寺が支えられていることも聞かなければわかりません。「若いもんに言ってもどうせダメやっちゃ」と諦めないでくだ

みんなのお寺

さい。自分の親が身を削って支えている事実を知って、何も感じない子はいません。すぐにはわからなくても、いずれ何かが伝わるはずですよ。「金がかかるならお寺との縁を切るわ」と短絡的に考える人もいるかもしれませんが、何も知らずに切れていく縁よりはずっとよいと考えます。

本堂の中心は阿弥陀さま。阿弥陀さまのお心がお経。お経の心を噛み砕いて伝えるのが僧侶の使命。自分の役割を全うできていない無力さをいつも情けなく感じていますが、これからもお寺へ来ていただきやすい環境づくりに努めますので、どうぞ、あなたのお寺の法要にご参加ください。

善巧寺住職

雪山 俊隆

寺報

善 巧

発行

〒938-0862 富山県
黒部市宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール info@zengyou.net
URL http://www.zengyou.net

賀 正

親鸞聖人七五〇回大遠忌

法要実行委員会

五十年に一度の節目、

一月十二日には臨時総

親鸞聖人の七五〇回大遠忌法要は、本山において

代会を開き、全総代に説明させていただきます。

平成二十三年四月から平成二十四年一月十六日の御満座まで勤められます。

そこで了解されれば全門徒総会、地域説明会を開催する予定です。

善巧寺では、四年後の平成二十五年に法要を予定しています。

その法要実行委員会が、六月二十二日の第一回から回を重ねること五回。記念事業計画、施工業者、見積もり、事業費用、募財等々について話し合いを重ねました。



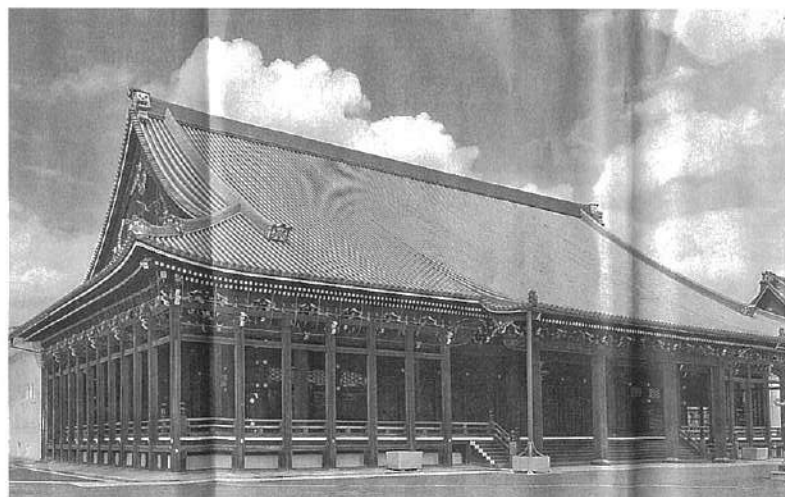
八尾間名寺へお寺見学



本山御影堂完成

皆様から頂いた御懇志が歴史に残る事業を成し遂げました。

本願寺の御影堂がこのたび完成しました。工期十年、大屋根の瓦総数十一万五千枚、総重量九百トン。現在阿弥陀堂に移



動されている御真影（親鸞聖人像）が、御影堂に

移動される四月一日の

「御動座法要」後、参拝

ができるようになります。

尚、本山に納める御懇志

は、おかげさまで完納さ

せていただきました。引

き続き集めさせていただきますので未納の方はよろしくお願

致します。今後の御懇志は善巧寺の大遠忌法要費用として活用されます。

営繕関係

平成二十年

度の善巧寺営繕事業も着々と進んでいま

す。

一、内陣（仏

さまがご安置されている場所）の畳を張り替え

一、玄関入り口に手すり

を設置

一、ハクビシンの点検と

出入り口数カ所を閉鎖

一、屋根裏のスズメバチ

の巣を撤去

一、講師部屋横の洗面所

の床張り替えと、洗面台

に温水器取り付け

一、裏庭の樹木の枝払い

と伐採

樹木はお寺と同様、で

きる限り護っていくこと

を希望しておりますが、

老朽化やご近所へのご迷

惑を踏まえて、最低限の

対応はしていきます、七五〇

回大遠忌法要には植樹を

予定しています。

今年度から来年度にか

けては、給水管増径工事

を予定しています。

お寺は眠ってはいけな

過去の資料を探してい
ますと、善巧寺開基五百
年法要の時の文章が目
にとまりました。先日ご往
生された浦山新の鬼原勝
次さんのお言葉です。と
ても印象に残るものでし
たので、改めてここに記
しておきます。

例えばいくらでも眠らせて
おけます。なにもしなけ
ればそれでいいのです。
しかし、それではお寺は
死んだも同然ではないで
すか。

門徒の私たちが何もし
なくても、おつとめだけ
はできるでしょう。しか
し、それでは参加した意
味がない。私たちの寺だ
という意識もない。私た
ちの先祖が熱い心で建て
たこのお寺を見殺しにす
るだけあります。やは
り、お寺はそれではいけ
ない。門徒もそれではい
けない。お寺と積極的に
関わって、初めてお寺と
いうものが意識の中に残
り念仏の声も心に響くよ
うになるのではないでしょ
うか。」

秋の二大法要

報恩講・空華忌

十月十九、二十日の報恩講、十一月四、五日の空華忌と、例年通り秋の二大法要が勤まりました。法要を執り行うために、準備からご満座まで総代、仏婦、世話方さんたちにはおよそ一週間にわたって足を運んでいただきました。おかげさまで、無事に勤めることができました。報恩講のご講師は常連の若栗発願寺住職川崎順正師。空華忌には高槻常見寺住職行信教校講師利井唯明師にお越しいただきました。



川崎順正師



利井唯明師

恒例のお寺クイズ



司会者鬼原猛さん



解答者に音沢と板屋の仏婦役員





お華束づくり



法要前の清掃奉仕、ありがとうございます



受付には総代の方々



仏具のおみがき



法要後の打ち上げ



カボチャ重量当てクイズも恒例です (カボチャ提供：浦山新)



冬の清掃奉仕

十二月六日はあいにくの雪。二日延期で清掃奉仕は行われました。平日のため参加者は少数になりましたが、おかげさまで新年を迎えられました。



九州天草の観乗寺坊守さんと



雪ん子三公演

雪ん子劇団は十一月十二日から三週連続で公演を行いました。

まず黒部市少年少女活動実践・意見発表大会に招待され、黒部市国際文化センターカラーレマルチホールで『うちのとうちゃんえらいんだ』を上演。主催者の大野青少年育成黒部市民会議会長さんら幹部の方々がとても楽しそうに観劇してくださった姿が印象的でした。



一週間後には入善町手をつなぐ育成会三十周年記念大会。昨年建ったばかりの真新しいうるおい館での公演でした。三つ目は地元の宇奈月小学校で、十日前に依頼があり急遽の公演でした。人権集会で、思いやる心・一人一人の命の大切さを学ぶ為に雪ん子劇団の『うちのとうちゃんえらいんだ』を是非ということでお受けしました。雪ん子はこの後二月に氷見で、三月には春の定期公演を予定しています。

参拝者の方々

十月にはあちこちからのご参拝がありました。

まず十月五日、新潟教区の託念寺さんご一行。昨年の七月に玲子坊守が新潟教区元上組の法座に招かれた時の組長さんが託念寺さん。大変熱心に活発に活動していらつしやるお寺です。

九日には長野教区川越組の命徳寺さんご一行。十九日は高岡射水組の蓮光寺さんご一行。善巧寺もいろいろなお寺へお参りしてみたいですね。



高岡射水組・蓮光寺さん



長岡・託念寺さん

寺
ごよみ

二 月

一日 浦山お講

九日 荻生植木報恩講

一〇日 生地報恩講

一二日 舟見報恩講

一六日 下立お講

一七日 入善報恩講

一八日 熊野報恩講

二三日 柝屋報恩講

二四日

寺
ごよみ

三 月

一日 浦山お講

五日 仏婦総会

二日 三日市報恩講

五日 下立報恩講

九日 浦山報恩講

一三日 柝沢お講

一六日 雪ん子劇団

二二日

二二日

春の公演

御正忌

親鸞聖人のご命日に
行われる厳肅な法要

一月十三日 午後一時 お逮夜

十四日 午後一時 釈の日

十五日 午前十時 お講

午後一時 お逮夜

午後七時 お初夜

十六日 午前十時 お講

午後一時 ご満座

転法輪正視師

高務 哲量 師



釈の日

ご縁があつてご本山から仏弟子としての名「法名」を受式された方、その後、法名を意識することはあります。か？仏弟子としての大切な名前です。それを再認識していただくために、御正忌中の二日目（十四日）を「釈の日」として法要をとめます。ご案内はここ十年の間に法名をいただかれた方へお送りしますが、それ以前に法名を授かった方もどうぞお参りください。

平成二十三年、本山で親鸞聖人七五〇回大遠忌が勤修されます。

日曜学校 カルタ会

一月三日 午前十時

日校成人式

一月十一日 午後一時

臨時総代会

一月十二日 午後一時

御正忌準備

一月十一日米とぎ

一月十二日準備

※いずれも午前八時半

雪ん子劇団 春の講演

三月二十二日 午後四時

お講のススメ

クリスマスチャンが毎週日曜礼拝に通うように、お寺でも昔から月に二回（二日・十六日十一時半）お講が行われています。心静かにおつとめをし、お当番さんのお齋料理でお腹いっぱい、午後からは法話で心をリフレッシュ。時にはお花見や紅葉狩りに行っています。新年最初のお講は御正忌中の一月十五日・十六日。通例のお講は二月一日からに

なります。お待ちしております。ります！



12月1日 新川育成牧場で

合 掌

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要実行委員会が会合を重ねています。ご門徒の皆さんにはご負担をお願いすることになります。が、二千五百年続いている御法りを伝えるお寺の伽藍を護らせていただきたく存じます。ご協力の程お願いするばかりです。

＊ ＊ ＊

十一月末に命子坊守が第一子華依と共に帰院しました。まだもの言わぬ赤ちゃんですが、周りを何と明るく楽しくさせてくれることでしょう。笑った、泣いたと大騒ぎです。お講などでも皆さんに可愛がってもらって有り難いことです。皆さんの温かいお心に囲まれてすくすくと育つことでしょう。よろしくお願いいたします。（R）

